

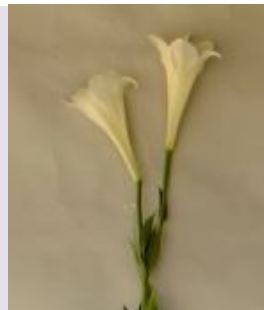
【全体概要】

シンテッポウユリは、4品種で6～9月出荷作型を栽培しているが、9月出荷は天候の影響を受け、出荷量が安定しない。また、供給量が減少している需要期の年末出荷も求められている。そこで、新品種を導入、夏季高温によるロゼット回避のための育苗技術を検討し、9、12月出荷安定栽培技術の確立し、出荷期の拡大と生産量の拡大を図る。

新品種・新技術等の概要

○新品種「西尾EX(エクセレント)」

県内の民間育種家である西尾氏が育成した品種群を「博多シンテッポウユリ」として生産・系統販売している。既存の8月出荷用品種に比べ生育・開花が早く、揃いが良く、抽だいに必要な低温遭遇量がやや少ない。



○9、12月出荷の安定生産技術の確立

県内5か所で実証ほを設置し、苗低温処理及び定植時期について実証。



主な取組内容

【事業検討会・設計検討会】(6月)

【プロジェクト会議】(6～1月、2回)

【実証ほの設置】

9月出荷作型:3カ所、12月出荷作型:2カ所

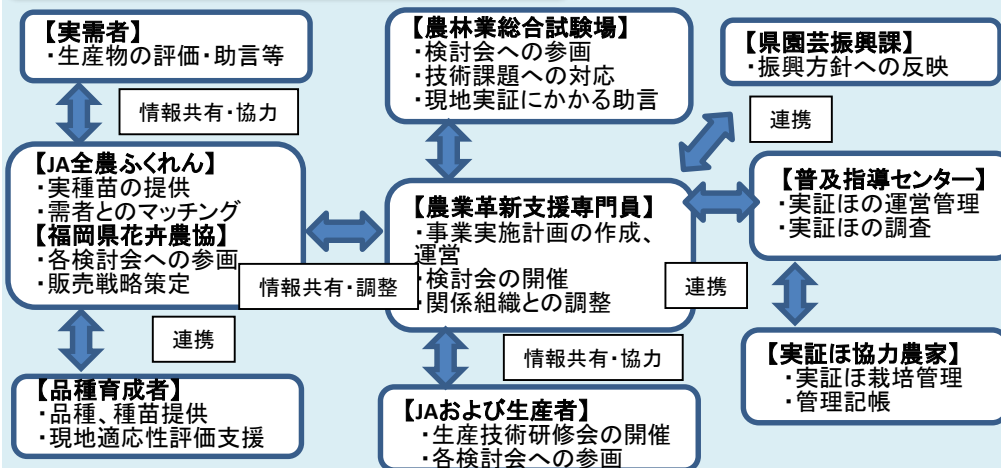
【現地検討会】(7～12月)

実証ほの現地検討会を実施

【先進地・市場調査】

先進地の愛媛県・兵庫県及び関西市場を調査。

実施体制図



課題と今後の対応

【1年目の取組み】

- ・農林業総合試験場で「西尾EX」の抽だい、開花等の品種特性を調査するとともに、産地において6～9月定植の開花実証試験に取り組んだ。6月中下旬定植で9月出荷が可能であり、9月定植では12月出荷に間に合わないことが実証された。
- ・定植後のかん水量が抽だい率に影響することがわかった。

【今後の対応】

- ・苗低温処理による9月出荷作型の実証ほ及び定植時期による12月出荷作型の実証ほを設置。
- ・「西尾EX」の9、12月出荷作型栽培手引きを作成。